

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 つつじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2), 自己評価作成日 (平成28年12月5日), 評価結果市町村受理日 (平成29年2月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は「認知することに障害があっても適切な支援があれば普通に暮らせる」をモットーにご家族、地域との関係性作りを構築しながら地域社会に貢献することを目標としています。利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で思い思いに生活し、居心地の良いくらしを送ることにより、その人らしい穏やかな日常生活を続けられるよう支援しています。具体的にはそれまでの暮らしに近い環境となるようになじみのある家具や道具に囲まれた環境作りを行い、畑仕事や買い物を楽しみ、頻回な外出行事や地域の方との交流を行っています。又職員は入居者様と生活をともにしていることを意識してゆっくりと関わりを持ち、一人ひとりの状態に応じた支援を専門職として提供できるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年1月23日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有化が行われ、職員は内容を理解して目的意識を持つように努めている。一人ひとりの生活スタイルに合わせた支援を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会の理解と協力をいただいている。町内会の一員として廃品回収や町内会行事への継続的な参加を行っている。絵手紙サークル、保育園、小学校との定期的交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回、里の家祭りを開催して、地域の方々やご家族との交流を図っている。また、認知症カフェに参加して認知症の人を理解していただけるよう取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の福祉課、管理者、町内会長、高齢者支援センター、職員、ご家族、入居者様など参加して定期的に行われている。サービス状況や避難訓練など報告、意見交換を行い向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の際は、市町村担当者へ入居者様の日頃の様子や状態の変化など具体的に伝え協力関係を築いている。また、運営推進会議では、担当者と率直な意見交換の場になっている。市の傾聴ボランティアを受け入れ定期的な訪問がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会参加や勉強会を行い職員が共通の認識を持つようにしている。玄関の施錠については、防犯の面から必要と思われる。入居者様が外に出たい様子が見られるときには、職員がその都度、外出支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含め、虐待についての研修会に参加して、どのようなことが虐待になるの理解し尊厳に向けた具体的な支援の取り組みを行っている。会議等でも話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は日常支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少ないので、今後の課題の一つと思われる。研修に参加するなど取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者がご家族に重要事項に関する十分な説明と同意をいただき納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの苦情には、迅速な対応を心掛けている。ご家族には、面会時や支援計画書の説明時を通して日頃から意見、要望等、話しやすい関係作りをしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や合同会議、内部研修等で管理者は職員の意見を聞いたり、個人面談にて要望を把握して運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後はご本人に意向を聞きながら労働環境作りに努めている。職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施は定期的に行われている。外部研修に参加する機会も多く、研修で学んだことを日々のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島ネットワーク地域部会に加入、地域ケア会議に参加して研修の機会を持ちながら交流している。また他ホームとの交流、見学会を実施してサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族からお話を聞き、アセスメントを取りながら、情報を職員間で共有して安心と満足をいただけるような支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ち、困っている事や不安なこと、要望を聞くように努めている。ご家族に信頼していただけるよう良い関係作りを初期の段階から築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人とご家族が必要としている支援を見極めサービスに生かしている。ご本人の状態に応じた支援を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共有して昔の出来事や知恵を聴くようにしている。共に暮らす仲間として関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子や体調の変化等を伝え、ご家族と共にご本人を支える環境作りをしている。受診の際は可能な限り同行して頂き支えあう関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人等の面会、またお電話の取次ぎなど馴染みある方々との交流の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で家事を行ったり、余暇時間を利用してゲーム等、関わりをもった支援が行われている。日常的に各ユニットとの交流が行われている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された時には、入院先の病院や施設に立ち寄りご家族のお話を聞いたり、ご本人の状態をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伝えられる方は日常の会話の中から意向を把握して取り組んでいる。困難な場合は表情や行動の観察をしながら想いを汲み取る工夫をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人独自のライフスタイルを聞くようにしている。日常の会話からも情報収集を行い馴染みある生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行い1日の心身状態やできること、わかることに働きかけ現状の把握に努め、確認、記録するようにしている。情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの介護計画書の評価と見直しを行い入居者本位の視点を介護計画の立案に反映させている。ご本人やご家族の要望を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のカンファレンスで話し合いが持たれている。ケアプランに添った記録を行い、評価の際に利用して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ通院や送迎、買い物支援など柔軟に対応している。個々の満足度を高めるように努力している。介護タクシーの手配や福祉用具の購入、美容室の手配を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	里の家祭りを開催し地域の方と交流を図っている。近所のお店や美容室を利用している。また、地域町内会の協力をいただき行事等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、往診、訪問看護、定期受診等、緊急時の受け入れ先にもなっている。ご家族が協力病院以外を希望された場合は、意向を尊重した対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体症状に変化があったときは、早い段階で病院につなげることが重要と認識している。訪問看護師や往診時に相談して指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ご家族と状況を確認しながら、早期退院に向けて話し合いを行っている。ご本人の支援方法に関して医療機関に情報を提供している。ソーシャルワーカーとの連携も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態の変化等、今後は、ご本人やご家族と話し合いを繰り返しながら、方針の共有を図れるよう取り組んでいく。認知力低下が見られた方には、日々の様子を伝えご家族に説明しながら方針の共有を図れるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況の急変や事故発生時の時など慌てずに適切な行動がとれるよう話し合いが行われている。また、緊急時のマニュアルが作成されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方(町内会)の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など職員全員が方法を身につけている。自主的、避難訓練も定期的に行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇り、尊厳を大切にするような言葉遣いを行い、毎月の目標に掲げ、意識を高めケアにあたっている。個人情報の流出が起きないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の希望や自己決定できる場面をつくっている。自己決定が難しい方は、行動や表情でくみ取り理解する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを提供するには、一人ひとりが希望する過ごし方、生活ペースを知る必要がある。各職員が入居者と関わりを深め、その人らしさを引き出すように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族希望の美容室に行かれています方もいる。身だしなみに気を遣い、髭剃り、爪切り、着衣等さりげなく声をかけたり介助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの食材を利用して献立に取り入れている。また、菜園活動を行い野菜を収穫している。食事のお茶入れ、食器拭きの片付け等、一緒に職員と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分摂取量は記載して、把握している。水分量の少ない方は好みの飲み物、果物等を提供している。主食の量の希望やむせこみがある方の対応等、状態を見ながら工夫している。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には洗浄の声かけを行っている。ご本人の有する力を活かしながら、できる限り食後のうがい、口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科診療を行い治療も対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用している方でもトイレ内で排泄できるように支援を行っている。排泄状況表の作成、時間を見ながら、声をかけたり、タイミングよく誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には混乱や執着があり、Drと相談しながら、便秘薬で調整を行っている。毎朝の牛乳、野菜中心とした食事や運動の声をかけている。また水分摂取表で水分量を把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日対応、体調や状況に応じて入浴を行っている。時間帯や入浴日の希望を言える方には対応をとっている。入居者様のニーズを把握しながら楽しみに繋がるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を促して生活リズムを整えるように努めている。個々の体調や表情を考慮して、安眠のための環境作りをしている。またDrと相談して薬の調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方されている薬の目的や副作用を把握して、Drの指示通りに服用している。また、服用した結果等を報告している。与薬の時には2名で読み合わせ確認、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 入居者様一人ひとり得意な分野で力を発揮して張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとり得意な分野で力を発揮して頂いている。菜園活動、家事、将棋やゲーム体操に参加を促し楽しみや役割を通して気分転換になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など戸外に出かけられるような支援を行っている。行事には入居者様の希望を取り入れてドライブや釣り行事、食事会等、季節ごとに取り組んでいる。町内会行事に参加して地域の方々との交流も図られている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さを理解し、金銭管理のできる方には持ってもらっている。できない方にも職員が対応して、ご本人の状態を見ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご子息や親戚等に電話の希望があったり、繋がらず心配な様子が見られたときは、職員の方から取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけをしたり、壁にはお誕生会や行事等のお知らせが貼られている。大きな日めくりカレンダーは、入居者様の日課の1つにもなっている。心地良く過ごせるようソファの配置等も工夫をしている。また、混乱が起きないように整理整頓を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、入居者様がひとりで過ごしたり、ごろ寝をしていたりとゆっくりとくつろげるような工夫を行っている。気の合った仲間が集まりホールで過ごす方が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具や馴染みのものが置かれ、ご本人が落ち着いて生活できるように工夫をしている。ご家族の写真や自慢の賞状など飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレ等の表示は目線に合わせて環境面の整備を行っている。手摺りも設置しており安全な移動ができるようになっている。		